

宍道湖周辺の水辺のまちづくりアンケート箇所

- 1 . 斐川なぎさ公園
- 2 . 宍道湖グリーンパーク
- 3 . 秋鹿なぎさ公園
- 4 . 松江堀川
- 5 . 大橋川
- 6 . 岸公園（県立美術館前）
- 7 . 嫁が島

斐川なぎさ公園



整備前

出雲空港利用者の増加
なぎさ公園整備計画



夏の空港なぎさ公園

出雲空港のすぐそばに新しく整備された公園です。水に親しめ、宍道湖の素晴らしい眺めを楽しむことができます。また、周辺からのアクセスも良く、行きやすい場所です。湖と空の青、砂浜の白、芝生の緑のコントラストが美しく、夏らしさを感じられます。宍道湖の新しい一面として、多くの人々が憩いの場として訪れることを期待します。

宍道湖水辺八景



水上スポーツが楽しめるよう配慮した潜堤
カヌー等の水上スポーツが楽しめるように、
潜堤の両端は水深を確保



歩行や休憩に便利な張芝
水辺への散歩や休憩に配慮した張芝



空港に隣接した公園
迫力ある飛行機の離着陸

魅力ある水辺空間の創出

基本コンセプト

斐川なぎさ公園と一体的な整備
美しい宍道湖における地域のシンボル
人々の憩う河川空間の創出

なぎさ復元



砂浜の保全のための開口部
砂浜への湖水の循環に配慮
砂の流出を防止するための離岸堤を設置



復元された砂浜
復元された砂浜は多目的に利用可能

親水性の高い水辺空間



水辺に親しめる階段護岸
スムーズに利用できるよう配慮した
階段護岸



魚釣りにも利用できるテラス
スロープを渡って安全に降りられるテラス



車椅子の利用に配慮したスロープと遊歩道
車椅子が水辺に近づけるように配慮
スロープ勾配5.0%

宍道湖グリーンパーク



コンクリート護岸のため、景観に課題

整備前

宍道湖西岸の自然を気軽に親しめる
宍道湖グリーンパーク整備計画



動植物の生息、生育環境の創出
トンボや鳥類のための止まり木を配置
生物のすみかとなる、自然素材を使用した捨石や木柵
動植物の生息の場となるよう、堤防や離れ小島に植生



環境学習の場の創出
自然を住みかとする多くの動植物を直接見て
触れることができる環境学習の場



渡り鳥の越冬地



トンボや鳥類のための止まり木



羽休めをする野生の鳥



グリーンパークの夏
ここは宍道湖グリーンパークと一体となって整備された場所であり、
生い茂るアシ、羽根を休める鳥たちなど様々な自然の魅力があふれて
いる。子ども達も安心して水辺に近づくことができるこの場所は、四
季を通じて多くの人々に親しまれている。
これからも自然あふれる憩いの場所であり続けて欲しい。

宍道湖水辺八景

基本コンセプト

魅力のある親水空間の創出
生態系の保全

親水性の高い堤防整備

宍道湖西岸のポテンシャルを最大限に活用



治水安全度を確保
引堤にすることで、緩勾配(1:10)の堤防
水辺に近づきやすく、親水性の高い空間



親水性の高い空間の創出
離れ小島に囲まれた親水性の高い空間



全景



背後施設と一体となった整備
宍道湖グリーンパーク、「ゴビウス」と湖岸との
人の行き来が容易に

宍道湖グリーンパーク（宍道湖平田地区多自然型湖岸堤）



引堤
引堤により堤防を緩勾配(1:10)とし、治水安全度を確保するとともに、親水性を確保



植生
堤防や離れ小島に植



止まり木
トンボや鳥類のため止まり木を設置



離れ小島
鳥の休息のために沖合いに離れ小島3箇所設置



ワンド
動植物を直接見て触れることができる環境学習の場



秋鹿なぎさ公園



整備前

松江・出雲大社を結ぶR431に隣接
宍道湖岸で数少ない自然の砂浜
道の駅の整備計画

基本コンセプト

道の駅と一体的な地域交流拠点
宍道湖の水辺との調和

にぎわいのある水辺

交流拠点

人・水・生物のいい関係



マリンスポーツの拠点
艇庫の護岸をヨットやカヌーを使用しやすい
よう幅を20m確保したマリンスポーツ斜路



駐車場、休憩施設
段差を少なくした駐車場
車止めには宍道湖に生息する野鳥のモチーフ



レイクサイドクラブ、道の駅
休憩交流施設、野外活動施設を完備
道路情報コーナーで様々な情報を提供



遊歩道・水辺広場の整備
デイキャンプや野外活動の場として利用



遊歩道・水辺広場の整備
水辺に親しめる遊歩道・憩いの水辺の広場を整備し、
にぎわいのある水辺を創出



湖畔のなぎさ保全
湖畔のなぎさを保全し、湖畔の景観を醸すアシ原、
湖畔林を保護し、人と野鳥・水辺のいきものとの
出会いの場を創出



親水護岸
水辺に親しみやすい階段護岸とし、親水性を確保



全景



秋鹿なぎさ公園

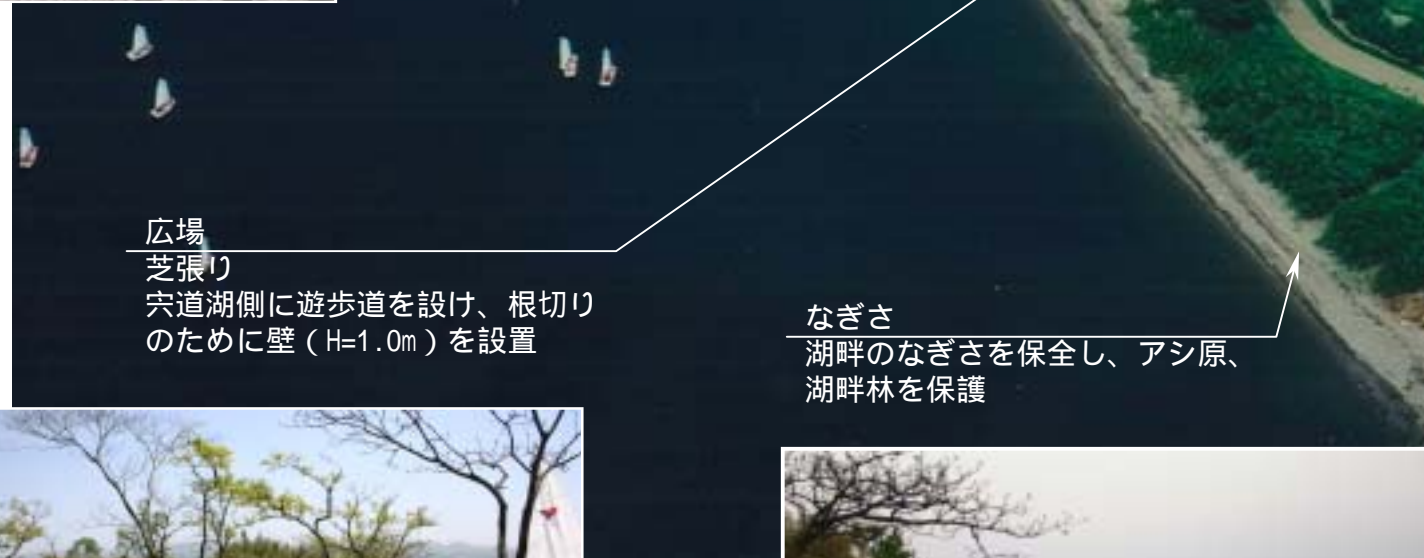


連柴柵工
流路確保の水際処理として
連柴柵工設置

マリンスポーツ斜路
幅員20.0m、勾配10.0%
舗装は、自然石透水性
喫水線を0.5m確保

坂路
幅員3.0m、勾配8.0%

斜路
幅員5.0m (転落防止柵含む) 車両すれ違い配慮
横断勾配1.0%、勾配3.1~4.5% (車椅子配慮)
景観に配慮した景観舗装



広場
芝張り
穴道湖側に遊歩道を設け、根切り
のために壁 (H=1.0m) を設置

なぎさ
湖畔のなぎさを保全し、アシ原、
湖畔林を保護

親水護岸
階段護岸 勾配1:2.0 幅20.0m
平常水位より上部を芝張り、下部を石張り
流路確保の水際処理として連柴柵工設置
H11.8.25撮影



松江堀川



水質汚濁の進行
メタンガスや硫化水素の発生
フナの斃死

整備前

水郷水都にふさわしい「水質」「水の色」「水の臭い」を回復

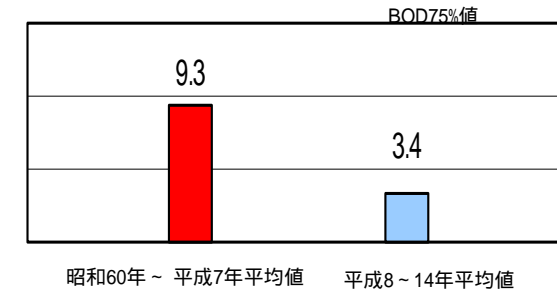


宍道湖から浄化用水導入

底泥の浚渫
下水道整備
清掃活動等

導水前後の水質(BOD)

導水前 → 導水後



浄化の進む堀川

基本コンセプト

「水都・松江」松江城から広がるリバーウォーク四つの輪

- Ring1 水都の歴史的景観の創造
- Ring2 賑わいのある現代的水都の創造
- Ring3 暮らしの中に息づく水辺の創造
- Ring4 ゆとりを基調とした水辺の創造

散策ルートと憩いの広場の創出

ゆとりある水辺の整備



散策ルートと憩いの広場の創出
観光資源を結ぶネットワーク
要所には憩いの場を整備



遊歩道の整備



小学校前の近くに設けた親水広場

歴史的な水環境の復元



歴史的な水辺環境の復元
眼鏡橋を木橋に架け替え江戸時代の姿を復元



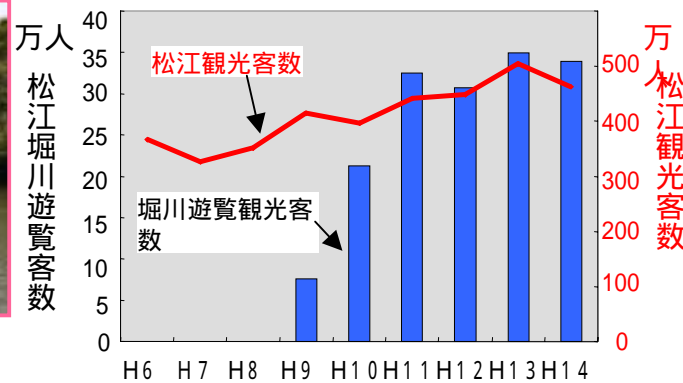
城下町の風情に合わせた石積護岸
歴史的経緯を踏まえた石積護岸



並木や舟溜まりの整備



ぐるっと松江堀川むぐり
松江城の周り約4キロを50分かけてめぐり



大橋川



岸公園（県立美術館前）



高さ1m程度のコンクリート性のパラペット構造の湖岸堤
水辺と公園が遮断
宍道湖を眺めるときにも護岸が障害

整備前

水と調和した県立美術館整備
岸公園整備計画

基本コンセプト

水辺に親しむうるおい空間の整備
美術館から宍道湖への空間的つながり
水都・松江にふさわしい風景

新しい視点場・親水活動の場の創造



宍道湖への視界
美しい夕日を背景に漁舟
宍道湖の風景



市民のための親水（出入り自由の広場）
自然の土手をイメージした緩勾配の張芝護岸
自然石を使った階段やスロープ
スロープには広い踏み場を設け、身体障害者
対応の手すりを設置



美術館と宍道湖とが調和した空間
水との調和をテーマに造られた美術館との
調和、融合した風景美

美術館との一体的な整備



美術館と一体利用
芝生エリアに彫刻を配置、松を植え自然な風景を創造し、
美術館の前庭として位置づけ
美術館からみて芝から自然に水面へとつながるよう張芝
護岸の勾配を工夫

自然な湖岸形態の再生



白濁の復元
突堤による保砂効果を期待
砂浜、原風景の復元を期待



自然材料使用・生態系への配慮
水際遊歩道は自然石（みかげ石）を使用
空隙構造で、生物が生息しやすい環境



突堤
松杭+捨石という宍道湖の伝統的工法



美術館のある水辺
白潟公園から県立美術館にかけての場所は、きれいに整備されたウォーターフロントである。
県立美術館の建物と水辺が融和し、憩いの場として多くの人々から親しまれている。
今後も人々の安らぎの場として愛され続けることを期待する。

宍道湖水辺八景

岸公園（県立美術館前）

張芝護岸

市民の利用勝手、対岸・湖上からの景観を考慮
美術館から水際遊歩道（硬い構造物）が見えないよう土手勾配工夫
（芝の傾斜が自然に水面とつながるように見える）
自然の土手をイメージした緩傾斜（1/28～1/3）
芝生エリアに彫刻配置、松植栽



突堤

浅瀬造成を目的とした突堤
松杭 + 捨石（宍道湖の伝統的工法）



水際遊歩道

幅員3.0m、ゆるやかな曲線
親水に配慮し水面との差を抑え、
転落防止柵を設けない構造
水に濡れても滑らないよう小タタキ
仕上げの自然石張縁石設置



階段・スロープ

自然石を使用した階段
勾配5%で踊り場を設置した
スロープ



嫁が島（夕日スポット）



夕景時混雑
夕日鑑賞者、撮影者、歩行者が集中し混雑
歩行者が歩道にはみ出るなど危険



護岸
歩行スペースが無く、水面近くまで降りることが
困難であり、親水性に乏しい

整備前



嫁が島残照
穴道湖に浮かぶ嫁が島。水面を赤く染め穴道湖に沈みゆく夕日と嫁が島のシルエットが大変美しく、多くの人々がその景色を見るために訪れる。人々を魅了するこの嫁が島の景色は、誰もが後世に残したいと思いを寄せる場所である。

穴道湖水辺八景

基本コンセプト

夕日の視点場としての充実を図り、利便性、安全性、景観の向上を図る



夕日テラス
通行者、観賞・撮影者が混雑せず、安全・安心な利用
階段護岸には、ステップベンチを設け、座って観賞が可能

夕日テラス



水際歩道
ゆとりある水辺空間
国道9号の歩道と昇降可能

水際歩道



駐車場
公園側に小型22台と大型2台
湖岸側に小型10台

駐車場